

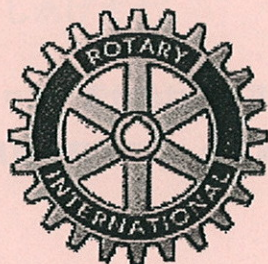
2010～2011年度
国際ロータリー第2790地区
第3分区A

ロータリー情報研究会

～地区職業奉仕委員会によるテーマ～

「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

報 告 書



と き	2010年9月28日(火)午後3時
ところ	アパホテル&リゾート<東京ベイ幕張ホール>
ホストクラブ	千葉幕張ロータリークラブ



《ロータリー情報研究会プログラム》

進行：千葉幕張ロータリークラブ

【ホスト RC 幹事】 寺川 典秀

14:30 登録開始

15:00 開会点鐘

第3分区 A ガバナー補佐 宇佐見透
(千葉幕張 RC)

国歌斉唱 「君が代」

ロータリーソング 「我等の生業」

15:10 ガバナー補佐開会主旨挨拶

第3分区 A ガバナー補佐 宇佐見透

15:15 ホストクラブ会長開会挨拶

千葉幕張ロータリークラブ会長 田澤剛一

15:20 地区職業奉仕委員長挨拶

パストガバナー 土屋亮平

15:25 地区委員卓話

テーマ；「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

地区職業奉仕委員会・クラブ研修委員会委員長 海寶勘一(千葉西 RC)

15:55 休憩

~~~~~

16:00 テーブルディスカッション (コーヒーとケーキのサービス)

— 各テーブルごとに意見交流 —

(地区委員がアドバイザー)

16:30 テーブルマスターによるテーブルオピニオンの発表

17:30 ガバナー補佐総評挨拶

第3分区 A ガバナー補佐 宇佐見透

閉会点鐘

第3分区 A ガバナー補佐 宇佐見透



## ロータリー情報研究会を終えて

第2790地区第3分区A

ガバナー補佐 宇佐見 透

本年度、織田ガバナーは「ロータリーの目的は綱領に基づいているのだから綱領に対し共通の理解を持つ事こそ重要」と定義され、地区職業奉仕委員会を通じて「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」というテーマのもと、それぞれの分区単位でロータリー情報研究会を開催し、互いに胸襟を開いて職業意識を持ち合い、根本的な問題から充分なる話し合いを積み重ねることが重要であると呼びかけられました。

そこで第3分区Aでは、去る9月28日に、地区職業奉仕委員会委員長土屋亮平パストガバナー様並びに地区クラブ研修委員会の皆様方にリーダーとしてご参加頂き、とりわけ地区クラブ研修委員会の海宝勘一委員長様に卓話をお願い致し、2010-11年度第3分区Aロータリー情報研究会を開催致しました。各クラブの会長様には出来る限り多くの会員参加をお願い致した結果、140名のご参加を頂きました。

お陰様を持ちまして内容の濃い、意義深いロータリー情報研究会が開催出来ました事に改めまして厚く感謝と御礼を申し上げます。

ありがとうございました。



## 開催お礼

<ホストクラブ>

千葉幕張ロータリークラブ

会 長 田澤 剛一

この度の第三区分Aロータリー情報委員会において、お忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございました。活発なご意見、ご指導をいただき有意義な、そしてロータリー将来につながる勉強会だったと思います。ホストクラブとしてお礼申し上げます。

当クラブもこれを機会に、今まで以上に密度の濃いクラブ運営を行っていきたいと思います。皆様方のクラブのご繁栄を祈念申し上げ、そして会員の皆様方にもお礼申し上げて戴きたいと思っております。

重ねて誠にありがとうございました。



## 〔第3分区Aロータリー情報研究会開催にあたり〕

第2790地区職業奉仕委員会  
委員長 土屋亮平(松戸RC)

国際ロータリー第2790地区第3分区Aロータリー情報研究会開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は宇佐見ガバナー補佐様のご指導の下、田澤千葉幕張ロータリークラブ会長様を始めとする第3分区Aの皆様のご協力を頂き、情報研究会がこのように立派に準備して戴きましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに諸々の案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是々非々の判断を下す必要性が要請されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修委員会』を置くことを要望され、常日頃から研鑽を積んで戴きたいと、断つての要請でございます。

特に、織田ガバナーは今年度・各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を、地区の職業奉仕委員会が担当するよう指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、一『出席なくしてロータリーなし』と言いますが一出席の重要性を再認識して、真のロータリーライフを構築して戴きたいとの思いと拝察致します。

出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？

今更そんな当たり前のことを議論するのか？

等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー・食事・卓話・それ以外にロータリーの例会にはもっとも深遠なものが存在しなければなりません。それを本日摘み取って頂きましょう。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第3分区Aのロータリアンの皆様、今日の研究会は皆様の研究会であります。敢えて言わせて頂けば、地区の職業委員の任務は、職業奉仕への道案内人に過ぎません。

どうぞ活発なるご意見を戴き、楽しく、実り多い研究会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一つ、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。



ロータリー情報研究会卓話  
「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

2010-11 年度地区職業奉仕委員会  
クラブ研修委員長 海寶勘一(千葉西 RC)

地区職業奉仕委員会に属します、クラブ研修委員会の海寶勘一と申します、ホーム・クラブは千葉西ロータリー・クラブです。今日は皆様方との友愛交流が深まることを期待して、緊張と不安を交錯させたまま、楽しみに訪問をさせて頂きました。

第3分区Aに於きましては、宇佐見ガバナー補佐さんに意義あるご指導を賜り、田澤会長さん初めとする千葉幕張ロータリー・クラブの皆さんには、素晴らしい情報研究会の設営をすべてにお願いしましたこと、心から御礼を申しあげますし、大変なご尽力を頂きましたこと誠にありがとうございました。

今日はロータリー情報研究会のテーマであります「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」を、分区の皆様と謙虚に語りあえる絶好の機縁として、この後にありますグループ討議を意義深いものにして頂きたいものと、今から楽しみにしております。重ねてホーム分区の皆様とのロータリー情報研究会で、卓話をさせて頂ける光栄さに先ずは感謝を御伝え申し上げます。

この後にある情報研究会とグループ討議が、できるだけ実のあるように、少しヒントをさせて頂きますと、日々ご活躍されている職業人であるロータリアンの皆様が、如何に職業奉仕の理念をもって毎例会に出席し、ご自身を律し成長させることの自覚、また事業繁栄にも結び付けていくために、気高い心構えに特化させる語り合いの中から、各テーブルごとに素晴らしい感化がしあえるよう、自己発揚の効果を期待しております。

今年度地区職業奉仕委員会は、土屋亮平委員長のご指導を仰ぎながら、委員会活動に専念することができておりますが、ご指導を受けたことを皆様に伝達させる役目も大きくありますので、今日は出来る範囲で御伝えをさせて頂きます。

つい先日も、ロータリーの職業奉仕とは大道無難につきるのだと言われました。その意味合いは、大道を歩むことから誰しもが不正をせず、回り道のようにも正義を心得て、慈愛をもって努力をし、悪さをせず惑わずに正義を実践するならば、事業繁栄はきっと約束されることになり、ということなのです。

さて私ごととなりますが、ごく最近になって漸く理解されてきたことが、ロータリー精神は気高くあり、常に純真であり、常に多様性があり、常に思いやりと寛容の精神をもつことであり、友愛交流をする例会の中からは、沢山の人間学を修練する機会があることを理解できるようになりました。

ホームクラブである千葉西ロータリー・クラブでは、長年にわたり、とかく奉仕活動を実践することだけに夢中になってきましたので、改めてロータリーの目的となっています、ロータリーの綱領を確りと理解して、標準クラブ定款とクラブ細則に書かれております、条項を一層よく読み込むことを始めました。

重ねて私自身の未熟さを露呈しますと、標準クラブ定款には第4条で綱領が謳ってあり、第15条では、入会時に綱領を受諾したことと、定款と細則を遵守する旨が書かれていることがまったく認識不足でした。職業人として職業倫理を身につけ、考えたり学んだりする人々の集いがロータリーであることや、地区セ

ミナー等で職業奉仕こそが、ロータリーの根幹なのだと教えられても、なかなか自分では上手く理解することができませんでした。

基本的な倫理観を真面目になって学ぶ大切さや重要さを、今になって謙虚に痛感して学んでいるところです。

土屋亮平委員長さんが2月に書かれた、「忘筌」と言う講演文章に掲載されていた、直前RI会長のジョン・ケニーさんの言葉がありますので、基本的なロータリー原則の質問に対して、非常に分かりやすく説明をされている内容をご紹介します。

- 1.「ロータリーが他の団体と異なる特徴」はとの問いかけに、ロータリーの基盤は職業奉仕です。
- 2.「ロータリアンの責務」はとの問いかけに、事業と私生活において、高い道德水準を保ち続けることです。
- 3.「会員増強の目標」はとの問いかけに、会員として優先すべきは資質であり、数ではありません。
- 4.「ロータリーとは」の問いかけに、異業種ながら志を同じくする職業人の集まりで、会員が個々に清純でこころ温かに地域社会に奉仕の手を差し伸べることです。

と応えていて、直前 RI 会長は、ロータリーが職業奉仕を失えば、単なる社会奉仕団体に成り下がり、職業奉仕から倫理観を失えば、職業奉仕は地に落ちてしまいますとも書かれておりました。

また地区研修リーダーの白鳥さんからも広報がされたことですが、ロータリーの友誌と月信7月号では、現 RI 会長のレイ・クリングスミスさんが、「クラブ奉仕と職業奉仕は、どちらも人生を謳歌し、善き市民になるよう私達を導いてくれるものである、また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地元の地域社会を住みやすく、働きやすい場所にする事ができるでしょう」とも述べております。

さて、ロータリーで言う「奉仕の理想」の基本理念なのですが、自分の職業の倫理性を高めて広く世の中に貢献することであり、他人に対する思いやりと助けあいをもって、各会員が率先し職業を通して「奉仕の理想」を実践するならば、社会生活における事業成功と、あわせて、人生の幸福に結びついていくことだと思えます。

その奉仕の理想 Ideal of Service の意識を高めていくために、仲間をたくさん増やし、一層誠実で良心的な事業に結びつかせたいものです。

取引先や相手の立場を尊重し感謝をすることから、どんな時にでも真実かどうか、皆に公平か、行為と友情を深めるか、皆のためになるかどうかの、四つのテスト The Four-way Test を言行に照らしてから守ることで、地域社会や世界の人々とも友人になり、理解をシェアすることを、健気に自己啓発していきたいものです。

1932年4つのテストを考案したハーバート・テラーは、経営不振に陥ったアルミニウム食器加工会社を引き受け、4つのテストを実践することで事業を再生させ、立派に繁栄を実証させた歴史的事実を知り、我々は4つのテストを真摯に身につけ、その効果に肖って、是非とも自分自身の職業の尊さと、価値を高めていきたいものです。

さて、ロータリー活動の大部分を占めているのは、毎週一時間ほど開催されるクラブ例会ですが、まさにロータリーの根幹となっており、今日出席するクラブ例会ではどんな出会いがあり、どんな気づきを得られるのだろうか、ウキウキした気分期待感をもって例会に出席できるようであれば、ロータリアンもクラブも共に活性化ができると思っています。

私自身ですが、自クラブやメークアップ先での例会場で意識をしていることは、先ずは例会に出席できた健康の幸せを味わい、会員の皆さんからは、有益な事業を率先されている様子を伺い、その溢れる元気なパワーを一身に受け入れることを最優先にさせながら、地区内外のクラブ例会に出席して、多くの仲間と語り合うことから、新鮮な感動と大きな喜びを味わうことができています。様々な仲間との語り合いができる例会場の感化からは、多様なエネルギーを享受することができ、自己啓発や啓蒙できることが素直に誇らしく思え、ロータリアンでいられることに感謝をするように心掛けています。

ロータリーの友誌9月号に掲載されていた記事ですが、今から87年前の1923年・大正12年9月1日にあった関東大震災の時、義捐金 25,000 ドルを贈ってくれた、日本にとってもっとも恩義あるロータリアンは、1923年国際ロータリー会長のガイ・ガンディカーさんでした。ロータリーの職業奉仕の理念を高く謳い上げて、「ロータリー倫理訓(道徳律)」を創り上げた方でもあり、著書である「ロータリー通解」はロータリーとは何かを教えるために書かれたものです。ガンディカーさんは「ロータリーの奉仕とは、良質な職業人が例会において自己研鑽を遂げ、一例会終わるごとに自分の心の世界が広く深くなり、自分の力量が大きくなっていくことを意味するのであって、実力の涵養と人格の形成が根本である。こうして自分の人格の形成のエネルギーが、やがて社会万般を潤すことになる。これがロータリーの奉仕であります」と「ロータリー通解」には書かれているそうです。大よそ約90年前の時代ですが、すでに、ロータリーの例会を自己研鑽の場と位置づけて、自分を磨き高めることにより自分の企業は発展し、したがって従業員も取引先も顧客も共に幸せになり、社会の発展を導くこと、これこそがロータリーの普遍的な職業奉仕だと呼びかけていたのです。

私も『職業には貴賤はない』と思い、打算的な営利を目的にしながらも、相手を思い遣る優しい心を養う愛情をもっていれば、近江商人の経営理念にあります『三方よし』、すなわち『売り手よし、買い手よし、世間よし』の達観心に繋がっていくのだと信じているところです。さらには、米山梅吉翁の「ロータリーの例会は人生の道場である」はあまりにも有名な言葉ですが、「学びて然る後に足らざるを知る」という教えがあるように、人の足らざるところは無限にあるわけです。物の考え方・立ち居振る舞いや言葉づかいと礼儀・生きる姿勢・あふれる情熱・持てる能力・知識の深さ・生きた情報等々、人間として、また経営者として、仲間の会員から毎例会で身につけるべきことはたくさんあるように思っています。

例会の目的ですが、職業上の発想の交換を通じて、相互に分かち合いの精神による経営事業の永続性を学びあい、友情を深めあい、自己心の改善を計ることにあり、その結果として奉仕の心、即ち、社会に役立つ価値を提供することや、思い遣りの心を育むことになるのだと思っています。クラブ例会は単なる食事会ではなく、親睦の場であることも忘れてはいけませんし、ロータリーの目指す親睦とは、フェロー・シップである会員同士の揺るぎない、信頼関係を築き上げることでしょう。毎例会の中では、強い個性をもった会員同士が、お互いに胸襟を開いて語り合い、毎朝、毎晩する歯磨きと同じように、お互いが職業人としての信頼と信用を磨き、正直で誠実な心磨きができることを率先できるようになりたいものです。

自分を鼓舞する為にも「奉仕に徹するものに最大の利益あり」の倫理を信じ、率先してロータリーの一番大切な真理を学び、真の仲間づくりに専念することが、最も肝心要であることを確信しているところです。

ロータリーとは職業奉仕理念の研鑽と実践を目的とした団体であることを、今まさに認識を深めていま

す。それは、定款第4条に書かれているロータリーの綱領の主文に、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」と書かれていますし、副文第2項には「事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めることとあります。ロータリアン各自が業務を通じて社会に貢献と奉仕をするために、その業務を品位あらしめることとも書かれていますので、ロータリーは職業奉仕を目的とした仲間の集団であることが改めてよく理解できています。

ロータリーには2つのモットー(標語)がありますが、第1モットーは、フランク・コリンズが説いた「超我の奉仕」"Service Above Self"。そして、第2モットーが、アーサー・シェルドンの言葉で知られる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」"One Profits Most Who Serves Best"です。日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁は、第1モットーの「超我の奉仕」は、「サービス第一、自己第二」と訳し、第2モットーも、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」と訳されていて、非常にわかりやすく理解することができます。

さらには、自己を高めて他人に奉仕をすること、すなわち、人を思いやり弱者の立場にいらっしゃる方に心配りや手をさしのべて、他人に尽くす献身さと誠実さに対して、積極的に行動することが、第1モットーになっている「超我の奉仕 Service Above Self」そのものであると思うようになりました。

第2モットーである「最もよく奉仕をするもの、もっとも多く報いられる」と言う実践理論の原理は、多くのロータリアンが共鳴され、心の指針として学び、日々職業奉仕に励む勇気を得ることができていることでしょう。私のなかでのロータリーは、「人は如何に生きるべきかを考え学ぶ処」であると理解をして、卒業のない人生学校の学び舎となっているのが、毎週のクラブ例会だと確信しています。

ロータリーの素晴らしさは、「ロータリーの綱領」の副文第1に書かれているように、多くの知り合いを広める事にありますし、クラブは勿論ですが区内や他地区とのロータリアンとの友情と奉仕の交流こそ、ロータリーの感動や醍醐味を、一層深く味あえるものと思っています。私の体験上なのですが、地区を越えて交流を広め深めることは、生涯を通じて利害を越えた、人生の師や真の友達を得る幅ができましたし、ロータリーの感動をたくさん享受できているところであります。如何に魅力あるロータリーとは、楽しい例会であり、為になる例会であり、思い遣りと語り合い考えあえながら運営されることが、例会の理想になると思っています。

私たちは今こそ毎週の例会場で、自発的に果敢な語り合いをして、真のロータリー、真の職業奉仕とは何であるかを考えあって、我侷な横柄さを捨て去り素直になって、お互いが豊かな心をもって、人格成長への学び愛をしていきたいものです。

「ロータリーとは親睦と奉仕を通して自分を磨くこと」であり、「親睦とはロータリアン同士が、ゆるぎない信頼関係を作り上げること」であり「奉仕とは素直に人への思い遣りと気遣いや心配りをする事」であると受け止めて、毎例会ではお互いに許しあえる寛容の心を学びとっていきたいものです。

ここで改めてクラブ職業奉仕委員会の任務を考えてみますと、個々の会員に対して自己研鑽を進言したり、ロータリーの勉強会を企画して、職業倫理の誠実さを貫くことであり、自分の職業繁栄に繋がる思いを、会員同志が身を以って体験し、発表できるように奨励すべきことだと思えます。あわせて、現職のロータリアンはより一層高潔な職業人を目指して頂き、現役を退かれたロータリアンは現職の方々を、一層育成鼓舞することに自信と矜持をもって頂き、クラブも会社も共に有益な活性ができますように、改



めて克己心を養いできるようにするのも、クラブ職業奉仕委員会の役目だと思います。

『ロータリアンよ一流の職業人たれ』と言う、凛々しい言葉が耳に聞えるようですし、皆様と一緒に、一流の職業人を目指して、良きことを為そうとするまえに良き人間としていれるように、会員一人一人が持つロータリーの道を、幅広く有益に歩み楽しみたいものです。ロータリーの例会や全ての集会に参加するときには、ロータリアンとしての誠実な心を磨くという目的意識を持って参加し、例会や集会を終えて職場や社会に戻れば、磨いた奉仕の心を実践に移すことを心がけたいものです。

ロータリー活動のすべては自己啓発なので、率先する自己研鑽の考え方が尊重されるからこそ、最もよく奉仕をする者最も多く報いられることが、普遍的に理解できるのだと思います。会員が、胸に付ける権利をもっているロータリー・バッジも、高潔な職業人として、信用し信頼できる者だけが、付けることを許された証であることを良く理解をして、誇りたかき職業人の襟章として心得たいものです。

これからも、「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」を心において、ロータリアン一人ひとりが、率先してクラブでの研修リーダーの役目を心掛け、スタイルを磨き、勇敢に意識改革をして頂けるように、第3分区A内7RC会員皆様の有意義なご活躍と、稔りある成果をご期待させていただきます。

最後に、土屋亮平委員長さんの講演文、楽をする誘惑の中にある、私が大好きな詩「人が生きるということ」の一部文を御紹介させていただき、私の拙い卓話を終わりとさせていただきます。

#### 【人が生きていること】

人が生きるということは誰かに借りをつくること　そしてその借りを返してゆくこと

誰かにして貰ったように誰かにしてあげること

人が生きるということは誰かと手を繋ぐこと　そしてその手の温もりを忘れないでゆくこと

巡りあい　愛しあい　そして別れたのち悔やまぬよう今日明日を生きよう

人は一人で生きてゆけない　人は一人で歩いてゆけない。

皆様と一緒にロータリーを誇り楽しみ、ロータリアンとしての資質を高めて、高潔な職業人を目指して大いに修練していきましょう！

ご清聴ありがとうございました。

## 第3分区Aロータリー情報研究会

### テーブルディスカッション報告書

#### Aテーブル テーブルリーダー 新倉多久磨(千葉幕張RC)

1. 出席を義務とは思わない人がほとんど。なぜ出席したくなるかを皆が発言。
2. 他人の為の奉仕活動はたくさんあるが、職業奉仕は自己の為になり、他には無い素晴らしい活動である。
3. 哲学は別にしても、楽しく新鮮で刺激がある。また利害の無い人間関係は素晴らしい。
4. 友人を作る場として素晴らしい。友としたい、優れた人に会いやすい。
5. 地元のことや人に対し知識・見聞を広め知ることが出来る。
6. ロータリーは会員同士のふれあいから、職業奉仕の哲学を学べます。その為に例会における人間関係を楽しむこと、いわゆる非日常の場を作ることに努力してきました。その非日常の場に居られることが素晴らしい。

#### Bテーブル テーブルリーダー 小林春雄(千葉中央RC)

職業奉仕—誠実に職務遂行—社会発展の基礎。

RC—職業の実践者—職業倫理、実践方法の良き手本

これを学んで自分の職業に生かす。

人間関係が基礎

例会—人間関係の苗床

基礎を作る場

重要性を認識

#### Cテーブル テーブルリーダー 上野卓爾(千葉幕張RC)

1. ロータリーの職業奉仕の理念は専門職業人の職業倫理や企業のリーダーのコンプライアンスの視点からも共感でき、例会はこれを学ぶ場だと思う。
2. ロータリーの間人間関係がある地域社会は大変貴重だ。
3. 職業奉仕の理念は、ロータリー発祥時の例会を彷彿とさせる。

#### Dテーブル テーブルリーダー 砂畑頼孝(千葉幕張RC)

1. 週に一度会うのを楽しんで出席する方が多い。
2. 自己研鑽のため、素晴らしい方々と自己研鑽する場。
3. 各々の職業の方々が素晴らしく、その方々と会って情報交換するのが自己研鑽の場である。
4. 週一度スケジュールリングしているので、自身が会社で不在でも充分に会社が回っている。

Eテーブル テーブルリーダー 田澤剛一(千葉幕張RC)

A会員 20年欠席を許さない。楽しいロータリー。月曜より週が始まる。

B会員 ストレス解消。気楽に楽しく。出席義務。

C会員 大先輩の話。子供の塾のように週一回の勉強が出来る。

D会員 例会のある月曜日がウイークエンドのようで、例会参加がリラックスできる。  
各々の価値観でエンジョイ。ニコニコに入れた人は必ずスピーチ。一人一人の人格形成に役立つ。

E会員(女性) 尊敬できる人、参考になる人が沢山います。人との拘わりが楽しい、行くのが楽しみ。

総括：例会とは、諸先輩より人生哲学を学び、職業人としての企業理念を学び、それからの人生をエンジョイするためのエネルギーをもらう場所。

Fテーブル テーブルリーダー 鈴木定徳(千葉RC)

例会への出席はロータリークラブの会員の義務の一つとなっているが、その意義はいろいろな価値観と経験を持つメンバーの人達からの学ぶ場であるというのが共通認識。

<メンバーの意見>

- ・30年間例会で楽しいコミュニケーションを週に一度楽しく人生を学ぶことができている。
- ・一週間定期的に出席することにより、責任感が育ち自分自身の水準を高めることが出来る。
- ・いろいろな人達の価値観を生で学びとれるのがロータリーの醍醐味である。
- ・住む世界が違うメンバーと接することで、多面的な判断力を養うことが出来る。自分自身が作られていく実感がある。
- ・ビジネスの交流はタブーの域では無い。物質両面満足出来れば退会しない。
- ・RCの奉仕の哲学は会社経営の哲学でもある。経営者の心のあり方を学ぶ事が出来る。

以上一週間に一度集うことから個人の資質を上げることが、職業奉仕に結びつく。

Gテーブル テーブルリーダー 植草和典(千葉幕張RC)

(1)例会の良さ

様々な職業に付いている方、年代の違う方と話や情報交換が出来、多角的な考えに触れ自分を見つめ直す機会となる。これが自己研鑽につながっていく。

(2)例会の問題点

例会場の席が固定化され話をする人が同じになってしまう。また会員減少により人間関係の幅が広がらない。

(3)工夫

時に席を指定する。また会議形式にしている。出席を受身にしないため例会ごとに「4つのテスト」を指名された者が読み上げる。

(4)職業奉仕について

社会奉仕に比べ理解しにくい等の意見が出たことに対してベテランロータリアンからアドバイスがあり、ロータリーの良さ、仲間への思いやり、優しさを正に垣間見ることができた。

Hテーブル テーブルリーダー 清水隆(千葉若潮RC)

異業種の中でのメリット（交流）、人脈、友達、会社（仕事）などのある中で、情報交換が出来る。（本音が聞けること）

出席は義務と責任を考えながらも、楽しい仲間作りをしながら、若い会員及び新入会員等に出席しやすい環境を作る。（各クラブ内のやり方で良い）

その中で、目上のひと、パスト会長等がロータリーとは何ぞや？と色々な事を教える必要がある。

以上の事を踏まえながら、親睦第一に考え、思いやる心を持ち、各会員同士が親睦を深めていき、そこから始まって行くので重要である。

Iテーブル テーブルリーダー 吉田宏一(千葉東RC)

Iテーブルのディスカッションについて報告致します。

1名欠席、2名お帰りになり6名でのディスカッションをさせていただきました。

「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」というテーマにつき非常に難しいテーマではありますが、本日の6名は全員が100%出席しているというメンバーでありました。優秀なテーブルでした。

1. 出席するのが当然であり、せつかくの例会を無駄にしてはならない。病気でも出る！外国に行ってもメーキャップするのがロータリアンとしての責務である。初めのうちは大変かもしれないが、仕事を調整し100%出席することにこだわっていくべきだとの意見がありました。
2. 全体的に皆と会うのが非常に楽しいし、仕事を調整しても例会に出席することに意味がある。仕事、奉仕活動、勉強会と様々な多忙さの中で、バランス感覚を持つことが大切である。“自分が楽しく活動する事”で“他人”もその楽しさの中に巻き込んでいく！決して孤独なメンバーを作ってはならない。派閥は作ってはいけない。
3. 中には週2回例会があっても良い、それくらい楽しいとの意見もありました。他業種の方々との交流は最高の喜びである。これからも100%の出席に努めるとの結論に達しました。

Jテーブル テーブルリーダー 渡辺岳仁(千葉西RC)

例会に出席することにより→仲間が増えて楽しい。

異業種交流が勉強になる。

卓話がためになる。

なぜロータリーでは例会出席が義務になっているの？

- ・ 知らず知らずのうちにロータリー精神が身に付く。
- ・ ロータリアンは例会に出て得るだけでは無く、自分自身が相手のためになる（与える）事を義務としている。

出来なければルールは：例会欠席→メーキャップ→退会

長期欠席者は会費だけ納めている。ありがたいが間違い。ルールの徹底が必要ではないか。

Kテーブル テーブルマスター 宮本和夫(千葉幕張RC)

「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

- ・ロータリーの所先輩方と話し会えるのが楽しく、昨年度 100%の出席をすることができた。声を掛けて下さる方がいると出席しやすい。
  - ・心許せる友人が居ると出席しやすい。面倒見の良い人がいると出席につながる。
  - ・異業種の方の話が聞ける。またプログラムにより楽しみがある。
  - ・会員卓話により人前で話すことにより度胸が付く。
  - ・週一度集うことが難しかったが、周りのバックアップがあると出席しやすくなる。
  - ・例会もリズムになれば出席はそれほど苦にならない。
  - ・例会後談話室を設けており、例会で話せなかった事を話している。
- “例会があるから集う”、出席することによって何か得るものがある。

Lテーブル テーブルマスター 山村和子(千葉幕張RC)

1. RIの定款に週一度の出席が義務づけられている。それでは入らなければ良かったという意見に：“入りて学び、入れて奉仕”という言葉がある様に、入らなければ親睦活動もできない。RIの理念も研鑽出来ない。外に出て奉仕活動も出来ない。
2. 仕事で成功しても一人では何も出来ない。ポリオ活動、辺鄙な国への援助等世界に向けて奉仕出来るのもRIの組織・活動があるからである。
3. 知的能力、精神的な能力、身体的能力の体験が大切。  
利益には2種類ある。1つはお金の利益。もう一つは精神的利益。奉仕で相手が喜んでくれると、自分も嬉しい心の豊かさの利益。

Mテーブル テーブルマスター 能勢大弘(千葉幕張RC)

昔はロータリーへの入会が大変だった。条件が厳しい、毎週出席出来る事、会費の納入等。現在は全て出席しなくてもOK。ロータリーのステータスが下がってきている。ロータリー精神の原点に立ち返る必要がある。そのことによって魅力あるロータリーになるのではないか。

- ・週一回出席が良いか悪いか？昼と夜どちらが良いか？夜の例会の方が出席しやすいと思うか？仕事か例会出席か？等。
  - ・週1回はきつい。例会に出席することによって自分の質を向上させるためには、魅力あるプログラムが必要である。
  - ・35歳で入会、例会にはほぼ出席、毎回いろいろなテーブルにまわりいろいろな人と会話をしている。
  - ・毎週出席していて、ロータリーで学んで事を社員に対しての参考に使わせてもらっている。
- 最近では会員数が少なくなっているのを入れる人は誰でもいいが、長い眼でみると質の高い人を入れた方がロータリーの伝統を守るのには良いと思う。

